

応募団体名	大阪府・大阪市
対象区域	大阪市 北区「うめきた2期地区」 此花区「夢洲地区」
テーマ	<p>【うめきた2期地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みどり」と「イノベーション」の融合拠点の形成 <p>【夢洲地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートリゾート シティ (SMART RESORT CITY) 「夢と創造に出会える未来都市」 ～ 国際的なエンターテイメント拠点の形成 ～
地域課題	<p>【うめきた2期地区】</p> <p>① 解決したい地域課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界からの人材・技術の集積・交流によって新産業創出を促進し、大阪の成長を牽引するエリアを実現する必要がある。 <p>② 背景となる地域特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積：総面積約16ha（隣接する先行開発区域は約7ha） ・産業：業務・商業・居住などの複合開発。中核機能として新産業創出促進機能を導入予定 ・人口：地区内に1,300戸程度の分譲住宅が建設される予定 ・立地：JR大阪駅に近接する交通至便地。2023年には関西国際空港に直結する新駅が開業予定。 ・歴史：2024年より順次まちびらき予定（全体まちびらきは2027年を予定） <p>【夢洲地区】</p> <p>① 解決したい地域課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際観光拠点の形成に向けて、来訪者の利便性・快適性・安全性の確保、各種活動における環境負荷の低減を図る。 <p>② 背景となる地域特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積：人工島であり、総面積約390ha（うち、中央部の国際観光拠点をめざす約170haは、北から南へ段階的に埋立） ・産業：東部は、高水準のコンテナ物流拠点。西部は、廃棄物処分場であるが、現在、メガソーラー等を設置し電力実験を実施中。 ・人口：常住人口はいない（住宅の誘導はしない） ・立地：大阪市中心部や関西国際空港、神戸・京都等からの道路アクセスが充実。地下鉄中央線コスモスクエア駅～（仮称）夢洲駅間を整備予定。 ・歴史：1977年埋立免許を取得。2002年コンテナターミナル稼働。2025年大阪・関西万博開催予定
取組の全体像 (規制改革事項を含む)	<p>大阪でのスーパーシティ～グリーンフィールドで展開するまちづくりを核に～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うめきた・夢洲は大都市の中にありながら、グリーンフィールドとして残る貴重な開発エリアである。 ・一方で、「希望の杜 Osaka MIDORI LIFE 2070の創造」をコンセプトとするうめきた2期、「SMART RESORT CITY 夢と創造に出会える未来都市」をコンセプトとする夢洲には、市民や企業活動に加え、国内外の観光客や来訪者といった不特定多数が行きかうまちとして、人々の利便性や安全性を高め、快適に共存できる環境を整備する必要性という課題も想定される。 ・課題解決のための最先端技術の導入等について、グリーンフィールドであれば既存のまちと異なり、関係者の合意も得やすく、今後のサービス進化を想定したインフラ整備も可能である。スーパーシティの枠組みにより、これまで困難であったビジネスモデルも実現可能となるなど、新たな価値の創出への可能性を秘めている。 ・さらに、課題解決の過程において生まれる数々のイノベーションを世界に発信、展開していくことで、さまざまな人材や企業の交流を促進、さらなるイノベーションの創出へとつながるというスタートアップエコシステムの構築を強化することも期待できる。 ・うめきた地区で最先端技術の導入及び情報発信をした上で、大阪・関西万博において未来社会の実験場として、国内外からの来訪者に幅広く最先端の技術を体験していただき、その成果を活かして、夢洲で非日常空間を形成する（未来社会の）まちづくりを実現していく。大阪でスーパーシティをめざし、「働き、学び、遊び、楽しむ」未来都市を実装することで、多様化と共存共栄に課題を持つ、日本国内の他地域等はもちろん、海外にもその成果を展開し、貢献していきたい。

【今後検討が見込まれる取組】

新規開発事業地において、開発事業者と調整のうえ、次の事項を総合して採り入れ、思い切った取組を行うことにより「丸ごと未来都市を作る」ことが可能である。

- ・移動：自動運転、MaaS 等による待ち時間ゼロなど需要に応じた確かな交通の運行、交通誘導、渋滞防止、駐車管理（キャッシュレス、空き駐車場への誘導）、鉄道利用との連携、空飛ぶクルマ等
- ・物流：ドローンによる配送等
- ・施設管理：ドローンによる建物の点検等
人流や気象などの各種データを反映した効率的な管理運営等
施設・社用車など企業間における ICT 活用によるシェア（オフィス環境の改善・人手不足対応）等
- ・施設利用：案内、チケットレス（スマホ、顔認証等）、待ち時間ゼロ（混雑対応）、キャッシュレスによる支払い等
- ・防災：エネルギーの面的利用、来訪者数・被災状況などの把握、情報発信・避難誘導（スマホ、デジタルサイネージ、多言語）、ドローンによる救助等
- ・防犯：防犯カメラによる監視等
- ・医療：脈拍・血圧等バイタルデータ取得、予防医療（運動・スポーツと健康含む）、アンチエイジング（医療・エンタメの融合）、医療機関との連携等
- ・エネルギー・水：効率的な供給等、再エネの有効活用、水素の製造・貯蔵・利用、徹底的な省エネ
- ・環境・ゴミ：食品ロス低減、ゴミ発生低減、生ゴミのバイオガス利用等
- ・エンタメ・アート：ICT 活用による来訪者参加型のエンタメ・アート等

<上記取組の関連事項>

①データの利活用方針（種類・収集方法・連携方法等）

- ・種類：来訪者のパーソナルデータ
- ・収集方法：対象区域内の各種活動及び来訪者からの提供
- ・連携方法：対象区域内の民間事業者（鉄道事業者）等のデータ連携

②規制緩和が必要な事項

- ・パーソナルデータの活用にかかる個人情報保護法の規制緩和
- ・自動運転にかかる道路及び公園内の使用・占用基準の緩和（通信機器含む）
- ・ドローン、空飛ぶクルマの利活用にかかる航空法の許可緩和（手続き簡素化等）
- ・エネルギーに関する面的利用にかかる道路占用基準の緩和（公共的扱い等）、電力系統への送電
- ・再エネ電力等の取引の普及促進に向けた電気事業法の規制緩和
- ・大規模な地下水熱の空調利用に向けた地下水規制の緩和
- ・水素ステーション等に対する高圧ガス保安に係る規制緩和
- ・医療にかかわる規制緩和（医師法、医療法等）
- ・その他、ローカル5G基地局・ケーブル、デジタルサイネージ（災害時の多言語による情報発信・避難誘導）等の ICT インフラの道路及び公園内の使用・占用基準の緩和

③合意形成の方法や課題

- ・新規開発事業地であることから、主に開発事業者と調整のうえ、来訪者の同意・合意が必要。

④段階的な実証・実装による実現

- ・うめきた2期での試行、万博での実証実験・実装を経て、夢洲まちづくりで実現

その他特記事項

- ・人口減少・高齢化の更なる進展が予想されるなか、未来技術を発展させながら、人・モノ・投資を呼び込み、大阪の成長を持続させ、関西など広域的に波及が期待できる本市のまちづくりは、地方創生に資するものである。日本の他の地域における地方創生の取組においても、大いに参考になるものと考えている。
- ・したがって、常住人口のない人工島等の区域も、スーパーシティの対象としていただきたい。
- ・また、今後、経済界等からの様々な提案も参考にしながら、スーパーシティに選ばれるように準備してまいる。
- ・なお、2025年の大阪・関西万博開催とも連動して、あらゆる方策を調整していく。